

令和元年度

高岡第一学園幼稚園教諭・保育士養成所 自己評価報告

1. 実施方法

自己評価表は『専修学校における学校評価ガイドライン』(平成25年3月)をもとに作成し、全職員によってそれぞれの項目について点検、評価を行った。評価は、「1(不適切)～4(適切)」の4段階評価とし、併せて可能な限り根拠や課題を明示するように努めた。

2. 自己評価の項目と内容

自己評価は、次の10を大項目として、質問・回答形式で行った。

- | | | |
|---------------|---------|-----------|
| (1)教育理念・目標 | (2)学校運営 | (3)教育活動 |
| (4)教育成果 | (5)学生支援 | (6)教育環境 |
| (7)学生募集 | (8)財務 | (9)法令等の遵守 |
| (10)社会貢献・地域連携 | | |

3. 自己評価結果 総括

(1)教育理念・目標

教育理念は高岡第一学園の建学の精神に掲げており、学園全体で志しているものである。学校の教育目標は、建学の精神をもとに定められている。これらの教育理念・目標について、教職員は熟知し、新入生オリエンテーションを始めとして折に触れて学生にも伝えている。保護者には父兄後援会において説明している。また、ホームページや学校案内にも記載している。

(2)学校運営

年度当初に事業計画の策定を行ったうえで、定期的に各運営会議(教職員会議・成績会議等)や日々の朝礼等を通じ、学校運営の進捗状況や課題などを全職員で共有している。

⑤⑥情報提供・情報システム化について

教育活動に関する情報公開に関しては、学校案内を県内や近県の高等学校に配布し行っている。また、年一回機関誌「たまくしげ」を、附属園と共同で「研究紀要」を発行し関係各所に配布している。

ホームページでの情報公開も充実させ、登校許可証明書および就職先報告書をダウンロードできるようになったが、入試情報等の更新がされていない状態になっていたことを気付くことが遅れ反省している。複数でチェックし管理していく体制を整えていきたい。シラバスの公開については引き続き協議していきたい。

(3)教育活動

教育課程および授業時間数、学則は変更や追加などがある場合に所管の富山県に提出・承認をいただいております。適切な学校運営を行っている。

③⑤カリキュラムの編成・作成・見直し

関連法の改正でカリキュラムの変更を求められたことに伴い、昨年度教員養成機関の指定を

受けた。また、県には昨年度指定保育士養成施設の変更承認を受けた。

R2年2月に実施した教育課程編成委員会の中では今年度より始まった新カリキュラムについての報告と、令和4年度末までに開設することになっている専門的事項の科目についての意見交換を行った。

④⑥キャリア教育・職業教育

本所は卒業後の就職・職種が明確であるため、具体的な職業教育を行うことが可能である。1年次から将来の職業ニーズを盛り込んだ授業カリキュラムを展開している。今年度から1年次の附属幼稚園の短期実習を「ボランティア実習」として単位化し、職業意識や実践能力を身に付けられるようにした。

また、今年度より職業実践専門課程の認定校となった。より職業教育に特化した実践的な学校を目指していきたい。

(4)教育成果

在学生の就職率、資格取得率は高いものの、前年に引き続き退学率が高く厳しい状況である。特に一年次に学習意欲が低下したり、進路変更を希望したりする学生が多く見受けられる。学校生活や学習への不安を軽減できるよう、また将来への見通しが持てるよう相談体制を強化し2年次に進級するまでよりきめ細かくサポートする必要性を感じる。

③退学率（休学率）

今年度1年生の退学者は7名である。また、昨年度休学していた1名は4月から復学している。2年生は1名休学しているが科目履修生として足りない科目を履修し、来年度から2年生で復学予定である。学生の欠席状況などの迅速な把握とともに学生の能力に応じた個別指導を心がけ、きめ細かく対応し退学率の低減に努めていきたい。

(5)学生支援

進路・就職に対する支援体制は2学年の担任中心に個別に対応している。経済的な支援に関しても日本学生支援機構の奨学金をはじめ、学費分割納入制度など複数の支援体制で対応している。また、今年度高等教育の就学支援制度の対象校になり、来年度は対象者が授業料、入学金の無償化もしくは減免を受けることができるようになっている。課外活動に対する支援体制、学生の保険に関しても必要な支援体制は整っている。

①進路・就職に関する支援体制

進路や就職に関しては2学年の担任がきめ細かく対応している。また、ジョブカード作成アドバイザーの資格や職業教育・キャリアサポーターの資格を保有している専任教員が就職支援のフォローをしている。

(6)教育環境

専門教育に必要な設備・施設は十分に整えられているが老朽化おり、必要な修繕で対応している。教育環境の改善を図るためにエアコンの改修をした。

防災については、毎年防災計画を策定し、自衛消防隊を組織しているほか、防災設備の定期点検も行っている。校舎はH27年度耐震補強工事が完了している。

(7)学生募集

学生数の減少が危惧されており、4年連続重点目標に「学生募集」を掲げ取り組んでいる。

《取り組み内容》（下線が令和元年度に新たに取り組んだ内容）

- ・6月、9月、11月…県内高等学校に学生募集に向向く。（保育コース、福祉科のある高校中心に）
- ・9月…隣県の高等学校に学生募集に向向く。（糸魚川、七尾、金沢方面、津幡）
- ・高校訪問の際に出前講座開催チラシを配布
- ・業者主催の学校説明会に参加（有料のものにも参加）（年間合計 回）
- ・7月・8月…「高校生のための幼児教育体験講座」開催
学生会が Powerpoint で学校のプレゼンテーションをする。
- ・10月…実習生の巡回訪問時に「社会人のためのオープンスクール」のチラシを配布
- ・12月…高岡市広報紙に「社会人のためのオープンスクール」記事を掲載
- ・1月…ハローワーク(高岡、富山)に社会人のためのオープンスクールチラシ配布
「社会人のためのオープンスクール」開催(5名参加)
- ・2月…職業訓練説明会に参加（富山・高岡・氷見）
- ・8号線沿いの窓に学校名、行事の表示(6回)
(幼教祭、高校生のための幼児教育体験講座、推薦入試、一般一次入試、一般二次入試、社会人のための幼児教育体験講座)
- ・高等教育修学支援機関要件の申請と高校への周知

結果、R2年度の新生は30名（内訓練生3名）と依然厳しい現状である。昨年度より入学者は9名減少している。今後もより一層の工夫と努力が必要とされる。引き続き重点課題にして取り組んでいく。

(8)財務

学校の財務基盤は学生の減少により厳しくなっている。

予算・収支計画は毎年本学園の理事会にて予算報告を行い、理事の承認を受けている。また、財務については学園本部でとりまとめ、会計監査が適正に行われている。財務情報はHPで公開し誰でも閲覧できる環境を整えた。

(9)法令等の遵守

設置や運営に関する法令は遵守しており、厚労省、文科省、所管の富山県総合政策局の指導を受けながら適正に運営がなされている。

自己評価はH26年度より毎年実施し、問題点を話し合い改善に向けて取り組んでいる。ホームページでの公開もH27年4月よりしている。また、H28年より学校関係者評価も実施し、その内容もホームページ上で公開している。

(10)社会貢献・地域連携

学校では年に一度幼児教育講座を開講し、幼児教育者の資質向上に貢献している。また、卒

業生の研修の機会にもなっている。附属幼稚園には毎年教員が要請に応じて訪問し指導助言を行っている。

地域連携という点からは、外部から特別講義の実施依頼が多数あるが、授業に差し支えない限り積極的に受け入れるようにしている。学生向けのボランティアも可能な限り推奨し、地域に開かれた学校を目指している。

県から委託される職業訓練生の受け入れも積極的であり、受講生増加に向けて社会人のためのオープンスクールで紹介するなどの努力をしている。

以上